

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度 第2回相模原市市民協働推進審議会				
事務局 (担当課)		市民協働推進課 電話042-769-9225(直通)				
開催日時		令和6年9月12日(木) 午前10時~11時20分				
開催場所		ウェルネスさがみはら 7階 視聴覚室				
出席者	委員	12人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	6人(市民協働推進課長、同課総括副主幹2人、同課主査、同課主任、主事)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 委員紹介 3 会長及び副会長の選任 4 諮問 5 議題 (1) 部会委員の選出について (2) 協働事業提案制度の今年度の状況について (3) 市民協働推進基本計画の進行管理について 6 その他 7 閉会				

1 開会

会長及び副会長が選任されるまで事務局の進行で開会した。

市民協働推進基本計画の成果指標等を見直さないこと及び令和6年度から令和8年度の成果目標値設定について庁内で承認されたことを報告した。

公募委員について2名募集し、応募が2名あったが、審査中に1名が辞退した。再募集したが、応募がなかったため、公募委員は1名とし、今期の審議会委員は14名とすることを報告した。

2 委員紹介

日頃の活動や協働に対する考え方等について自己紹介を行った。

3 会長及び副会長の選任

相模原市市民協働推進審議会規則（以下「審議会規則」という。）第3条第2項の規定により、委員の互選による会長及び副会長の選任が行われた。その結果、会長に山岸委員、副会長に竹田委員が選任された。

4 諮問

協働事業提案制度について提案内容が固まり、準備が出来次第、諮問させていただくことを報告した。

5 議題

(1) 部会委員の選出について

審議会規則第7条に基づき、協働事業提案制度事業審査作業部会（以下「作業部会」という。）の委員構成について提案を行い、承認された。

【主な意見等】

特になし

(2) 協働事業提案制度の今年度の状況について

事務局から資料に基づき説明を行い、以下のとおり意見があった。

【主な意見等】

(大貫委員) 新規提案事業が4件あったとのことだが、提案に至らなかったものの相談があった事業について伺う。また、行政提案が今年度もなかったとのことだが、見解を伺う。

(事務局) 資料2 - 3裏面に、提案には至らなかったが、事前相談があった事業一覧を記載している。相談内容の多くは、来年度開始を目指しているものでなく、将来的には実施したいというもののため、今後もフォローして

いきたいと思う。

行政提案がなかったことについては、市役所全体が新型コロナウイルスに対応すべく、業務を縮小したところもあり、難しい状況であったと思われる。令和2年度に市民協働推進主任を全庁に配置しており、市民協働に対する意識向上や手法の共有を努めている。昨年度5年ぶりに、市民協働推進研修を開催し、今年度も11月に開催を予定している。行政提案がなかったという事実を踏まえて、今後もまずは職員の意識の向上に努めていきたい。

(今村委員) 新提案4事業及び提案には至らなかった7事業の計11事業の案が出てきたが、この数字についての見解を伺う。

(事務局) 事前相談の数としては、それなりにいただいたと認識している。市民協働推進基本計画の評価指標にもなっているが、年度の目標値には達している状況である。ただ、前回の審議会で、協働事業審査作業部会の部長を担っていただいた妻鹿先生からもお話があったとおり、就任した当初は、事前相談の件数はもっと多かったとのことなので、今の数が目標値に達していることに満足することなく、広く提案いただけるよう、団体への周知は、今後も継続していく必要があると認識している。

(3) 市民協働推進基本計画の進行管理について

事務局から資料に基づき説明を行った後、審議会による2次評価を行い、計画全体の評価をB評価とした。主な意見等は以下のとおり。

【主な意見等】

(大堀委員) 資料3 - 2 指標1の地域活動・市民活動に参加している市民の割合はどのように算出しているのか。

(事務局) 政策課で、毎年度末、市民アンケートを実施しており、この項目を入れている。

(山岸会長) どういったものが地域活動・市民活動に該当するのか、例示の記載はあるか。

(事務局) 様々な活動を例示として挙げており、その中から選んでいただく。

(今村委員) 新規の委員もいるため、これまでの議論の概要について共有させていただく。基準年を含めると9年の長期目標設定がされており、それぞれの項目を数値化し、基準に照らし合わせることで評価する仕組みを定め、進行管理がされている。令和5年度は、中間年度になるため、この基準の効果測定や、評価を行うかどうかという議論があった。前回の審議会では、このままいくのが妥当であろうという議論を経て、後半の計画年度に入っていくと承知している。そのため、今後指標がどうあるべきか

という議論はどこかで出てくるかもしれないが、それまでこの指標を準用しながら、コロナ禍が収束に向かう中で、どうあるべきかということ を議論していくという方向性となっている。

(山岸会長) 新型コロナウイルスの蔓延を想定して計画が策定されたわけではないため、この3年間で市民活動・地域活動を辞めてしまったり、離れてしまった人たちを呼び戻すような新しい形の取り組み方を提示していく必要があると思う。活動団体数は、データ上どういった推移になっているのか。

(事務局) この3年間、解散するNPO法人は多かったが、昨年度からは新規で立ち上がる団体も多くあった。そのため、NPO法人に限らず任意団体も含めて、数の面では横ばいとなっている。

(大堀委員) 今村委員から先ほど経過についてご説明いただいたが、推進計画の成果指標等をこのままでいくことになった論拠を説明いただきたい。

(事務局) 計画が開始された令和2年度から令和4年度までは、新型コロナウイルスの影響を強く受けた成果指標が多くあった。令和5年度からが本来の取り組みになると考え、引き続き各種施策に取り組んでいければということで見直しを行わない方向性となった。

(福原委員) 基本施策4 協働を推進する拠点となる場の提供について、人口数や活動団体数、それぞれの地域の課題も各区によって大きく異なると思う。活動拠点を増やすことができるのであれば、様々な面で活性化に繋がると思う。その点どう考えているか。

(事務局) 現時点では、拠点を増やす想定はない。ただ、その地域ごとの課題に対して活動している方が相談したいこと・活動に対して疑問に思っていることなどがあれば相談できるように、定期的に各区でサポートセンターによる相談会を行っている。

相模原市は公民館が多く、またソレイユも活動拠点の一つだと思う。ただ、活動したいと思っている方へのそうした拠点の認知度には課題があると思っており、相談業務からそうした場所につなぐこともできると思った。活動場所をまず知っていただくというところで、取り組みを進めていきたい。

(福原委員) ユニコムプラザに来る人たちは、知っているから良いが、地域の人たちがどうやって大学と繋がったら良いかとなった時に、自分の地域の公民館等に相談することも多くある。そうした件数を現状拾えていない。相談件数は、大小問わず確実に多いはずであり、そうした数字を拾うことで、相模原市の市民活動が活発であることをPRできると思った。

(今村委員) 基本施策2 - 4のさがみはら市民活動サポートセンター講座の年間延べ

受講者数が、目標値には届いていないが、非常に伸びており、コロナ禍が明けてきたという機運を感じられる数字になっているというのは、期待感があると思う。一方で、次に何を期待したいかということは、大貫委員もおっしゃったように、協働事業提案制度の行政提案の件数がゼロだということである。事務局からも話があったが、おそらくこの制度の使い勝手もあると想像しているが、0件が続いているという制度の点検をしていくと良いと思う。基本施策2-4の数値にも出ているように、需要が高まっているならば、いかに行政側がオープンなスタンスをとっていくかということが、今後は求められると思う。制度自体に、行政提案をすることが、難しいという点があるのであれば、これは仕組みの点検をするということも議論していった方が良いと思った。他の自治体を見ても、行政との協働事業提案制度には、構造的な難しさがあり、仕組みを点検しようという動きが見られるところもあると聞いているため、相模原市においても検討しても良いと思う。

(山岸会長) 基本施策3-2の市民・行政協働運営型市民ファンドによる年間助成事業数だが、実績値が減少している。これも他の自治体でも起きており、要因として、周知不足が挙げられる。行政側からのアプローチとして、制度の理解認知が必要になると思うため、今村委員の話も含めて、行政全体で、改めて活性化していくような姿勢を表しておくことは重要であると思う。

(今野委員) 基本施策2-1さがみはら地域づくり大学事業の充実については、地域の人たちに、地域づくり大学が知られるようになり、また市民活動に参加したいという方たちが参加して、そこから様々なところに発展し、活動されているのを目にする。

基本施策4-1さがみはら市民活動サポートセンターの充実では、センターの登録団体もコロナ禍および高齢化で活動を辞めていく中で、新しい団体や積極的に活動している団体への声かけなどの努力をしていると思う。また、大学生を交えてのイベントも行っており、若い人を巻き込んだ動きというのは評価すべきであると思う。

(青木委員) 全体を見ると、活動は活発化してきており、実績値を下げているところの方が少ない。D評価からS評価に改善している成果指標もあり、昨年と今年の結果を比べた場合には、A評価としても良いのかもしれない。

(藤田委員) 資料3-1にもあるとおり、評価基準に基づくB評価となる。B評価としたうえで、プラスの評価意見をコメントで示していくことで良いと思う。

(山岸会長) 令和 5 年度の評価を B 評価とし、本日の意見等を踏まえ、事務局で進行管理シートを整理し、確認については会長に一任させてもらうことで良いか。

(委員一同) 異議なし。

(山岸会長) 本日は、活発な意見を頂戴することができた。これからも、2 次評価の結果を踏まえ、市は着実に取り組んでもらいたい。

6 その他
無し

7 閉会
全ての審議が終了し、閉会した。

以 上

相模原市市民協働推進審議会 委員名簿

(令和6年9月12日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	青木 庸江	相模原商工会議所 女性会会長		出席
2	石川 壽々子	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会 理事		出席
3	今村 亮	認定特定非営利活動法人カタリバ パートナー 桜美林大学高大連携コーディネーター		出席
4	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会 会長		出席
5	大堀 研	青山学院大学 准教授		出席
6	今野 紀代美	特定非営利活動法人 市民フォーラムさがみはら 副代表理事		出席
7	佐藤 匠	特定非営利活動法人 さがみはら市民会議 代表理事		欠席
8	高木 寛之	山梨県立大学 教授		出席
9	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長	副会長	欠席
10	長澤 敬子	相模原市公民館連絡協議会 副会長		出席
11	福原 信広	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 代表理事		出席
12	藤田 由美子	公募委員		出席
13	八木 さやか	公益社団法人 相模原青年会議所		出席
14	山岸 絵美理	大月市立大月短期大学 准教授	会長	出席